

森 - 久 様

94/5/1

前略

先日は電話で失礼。あの日の午後、我々のNPT問題研究会で大塚さんから広島における原産集会の報告—14日夜の市民との対話集会を含めて—の話を聞きました。それによると司会を務めた森さんは、感情の高まりが押さえ切れずに時々発言を中絶して涙を流していたと言う事で、いかにも情景が目浮かぶようで、被爆後の高熱の果てにリンゲル注射でやっと命を取止めた貴方としても感慨無量であったと思います。とにかく良く志を守ってこの1年間の準備期間の間「核廃絶」を貫徹してくれたと、反核の一人として感謝します。ご苦労様でした。原子力産業団体としては正に画期的な事で—尤も日本でしか起こり得ないかも知れませんが—、来年のNPT再検討・延長会議を控えて、情勢が高まりつつある時に、時宜を得た行動であり、宣言であったと思います。

当方も貴方の驥尾に付いて、年金生活の安定性を活用して、退職の挨拶でも述べたようにささやか動きを続けています。一つはNuclear free worldを目指して、当面は来年のNPTを目標とする、伏見、藤部、大塚などの諸兄に支えられた上記の勉強会です。大塚さんを通して原産からも資料面などで世話になっている様です。この1月以来、服部さん達が開いている神奈川の「NPT連続セミナー」で、2月に報告をしましたが、これには原産の石塚さんが出席していたので、一部は耳に入っているかと思います。4月の最終会の「今後の活動方針」への私の提案のコピーを同封します。私のNPT問題への現在の哲学です。

もう一つは Sustainable society for ever です。今の大量生産、大量消費、大量廃棄で commercialismの嵐の吹き荒れる物量宣伝の社会を何とかして、何時までも長続きの出来る世の中にしようという物で、「核」が短期の緊急対策とすると、これは長期の対策です。今年の春分の連休に神戸で第1回の実行委員会が在って参加して来ました。現状でも厳しい南北問題、倍増は堅い人口増加問題、中国だけでも大変なエネルギー問題、そして有限な環境問題と、特に日本列島が埋まりそうな廃棄物問題、地球の将来はこれらの連立方程式の境界条件下で解を探すこととなります。現状の経済方式では正に絶望的ですが、これを21世紀中に何とかしないと、折角非核の世界が実現出来ても無駄になります。

以上の二つが私の現在持っている危機意識で、生きている間に方向性だけでも打ち出して行きたいと言う大欲—生きている内には成就是殆ど期待できない—を抱いて、毎日忙しく暮らしています。

さて先日の森さんとの対話に刺激されて、昨日の小沼さんのPugwashの会合に出席しました。少しは役に建つかとも思えるので、今後も出る積もりです。ここで豊田利幸・今井隆吉両氏の初顔合わせが在りました。先日日本のNPT加盟の前に書かれたと言う、中曽根の日本核武装検討書なるものを読みました。今井さんでないと書けないだろうと思われる部分も在りましたが、外交問題が未検討で全体はややお粗末な印象でした。

最後にPu問題ですが、佛のECHOLE POLYTECH.の「SPXと軍事用Pu生産」の關係の資料を同封します。私はFBRの実用化には核廃絶、少なくとも世界的な核の使用禁止が不可欠だと思います。従って平和のためにも、原子力の正しい利用のためにもまず核廃絶です。

今の日本の政治屋どもの、志を欠いた権利欲のみの離合集散には愛想が尽きますが、しかしこれが日本現実と在れば、ここから出発せざるを得ません。連休にゆっくり休んで再び行動開始と行きましょう。 奥様にも宜しく。 お元気で。 立花 昭 拜。